

思いやりの心を育てよう 人権の花運動

法務省が実施する「人権の花運動」の取り組みとして、11月18日にながさき幼稚園、11月26日になかやま保育園の子どもたちが花の苗の植栽を行いました。

この運動は、子どもたちが協力しながら花を育てることで、優しさや思いやりの気持ちを育むこと、人権を大切にすることを成長させることを目的とした運動で、町の人権擁護委員会を中心に毎年実施されています。

今年は、紫や黄色など色とりどりのビオラを、町の人権擁護委員の皆さんと一緒に植栽しました。

「人権の花」の植栽は、長崎小学校・豊田小学校でも実施され、水やりなどの世話を通し、命の大切さや思いやりなど、人権の意識を高めていきます。



ながさき幼稚園

真っ赤なりんご、おいしいね♪ 地産地消給食

11月27日、町内の小中学校で地産地消給食が実施され、児童・生徒に町内で収穫された「ふじりんご」が振舞われました。

りんごは、食べ物とその生産者に感謝し、食の大切さとふるさとの農業への理解を深めてもらおうと、町地産地消推進協議会から提供されたものです。

当日は、豊田小学校に同協議会事務局や生産者が招かれ、3学年の児童と一緒に給食を食べました。

鈴木彩花さん（柳沢）は、「お米や果物は、苦労して作られていることが分かった。これからは、食べ物と作ってくれる人に感謝しながらおいしく食べたい」と話し、生産者の志田重則さん（柳沢）は、「りんご作りには苦労もあるけれど、みんなの笑顔を見ると、来年はもっとおいしいりんごを作ろうという気持ちになります」と話し、りんごをおいしそうに食べる児童の姿を見て、とても嬉しそうでした。



TOPICS ひまわり広場

まちのホットなニュースをお届けします！

皆さんの身近な情報や写真をお寄せください
総務企画課情報防災グループまで
電話662-4899

芸術文化の秋の祭典 芸文祭

11月1日～4日の4日間、中央公民館を会場に「第46回 中山町芸文祭」が開催されました。芸文祭は、町芸術文化協会が主催しており、芸術文化活動に打ち込む会員の発表の場にと毎年開催しています。

2日に行われた合同発表会では、7団体が合唱や日本舞踊など、1年間の活動の成果を披露しました。ステージ上では、踊りや演奏が次々と繰り広げられ、観客からは盛んな拍手が送られていました。

また、謡曲の披露や生け花、短歌などの作品展示コーナーやお茶席も設けられ、訪れた人は思い思いに各コーナーを回り、芸術・文化に触れていました。



お兄さん・お姉さんと交流



11月27日、長崎小学校1年生がなかやま保育園の年長児を招待し、「あきまつり」を開催しました。

1年生の教室には、けん玉屋さんやアクセサリー屋さんなどのお店が立ち並び、1年生は園児の手をひいて各コーナーを案内しました。

年長児は、実際に校舎に入ることによって小学校への意識も高まり、優しいお兄さん・お姉さんのおかげで楽しい時間を過ごすことができたようです。

ほんわ館まつり

11月9日、町立図書館ほんわ館で「ほんわ館まつり」が開催され、紙芝居や絵本の読み聞かせのほか、一箱古本市など新しいイベントも行われ、多くの人でにぎわいました。

また、詩人の和合亮一さんを迎えて開催した詩のワークショップでは、小中学生が中山町をテーマにした自作の詩を作り、発表しました。参加者は、「詩を作るのは照れくさかったけれど、自分の言葉で中山町の詩が作れてよかった」と満足そうに話していました。詩はほんわ館ギャラリーに掲示しています。

